

## JR福知山線脱線事故から5年

# 二度と生み出さぬ無期限欠番

107名の尊い人命を失ったJR史上最悪のJR福知山線脱線事故から5回目の4月25日を迎えました。

事故から5年目を経た今年は、ある意味で節目としての脱線事故の業務上過失致死傷罪の時効(4月30日)を向かえる年でしたが、昨年7月8日神戸地検による事故当時安全担当役員であった山崎正夫前社長を業務上過失致死傷罪で在宅起訴、そして二度の神戸地検による「不起訴」決定のたびに神戸第一検察審査会が「起訴相当」の議決を行い、時効成立目前の4月23日に井手正敬、南谷昌二郎、垣内剛歴代3社長が在宅起訴されました。

この背景には、昨年発覚したJR西日本幹部による事故調査委員会委員への情報漏洩問題がありましたし、事故の背景的要因とも言われている日勤教育問題でも今年3月11日に最高裁で不法性が確定したことがありました。

このようにJR西日本に対して、世論の厳しい目が向けられており、JR西日本歴代6社長中4社長が刑事責任を問われる異常な事態になっている現状が、そのことを如実に表しています。

JR西日本同様に公共交通を担うJR東海としても、運行優先姿勢や日勤教育、等々の安全を脅かしかねない問題が無いわけではなく、世論の厳しい目が向けられていることは間違いありません。

ウワサでは、脱線事故の列車「5418M」という列車番号は日本航空123便墜落事故ので無期限欠番となった「123便」同様に無期限欠番になっているそうです。

私たちは、公共交通の一翼を担う一員として、JR福知山線脱線事故を他社のことと考えず、決して忘れることなく、教訓化して、二度と不名誉な「無期限欠番」を生み出さないように、安全のためには決して臆することなく現場から声を上げていきましょう。

最後に、107名の方々のご冥福を改めてお祈りいたします。